

令和2年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校長 印

中4

学 校 経 営 計 画 (4月)			評価 (3月)	
学校運営方針	校訓に掲げる精神に基づき、心身ともに逞しく文武両道を身につけ、氣高さを追求する豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	今年度重点目標	具体的目標		
県で常にトップレベルの学力を示すことができた。今年度は開校6年目となるため、中学3年間の教育課程の充実と共に、中高6年間の教育課程の充実とその運営体制の整備を図る。	1 新たな学びの推進と生徒の個性や能力を伸長する丁寧な指導により、生徒の進路実現の支援を充実する。 2 指導と評価の一体化により生徒の意欲を引き出す授業改善を図る。 3 文武両道の教育活動を広報することで、地域に根ざし、地域に信頼される学校の活性化を図る。 4 中高一貫キャリアプログラム「嘉穂 Dream Compass」を軸として、地域と世界に目を向けたグローバル人材の育成を推進する。	1 主体的・対話的で深い学びやICTを用いた授業を展開し、生徒の探究心を育てる。「鍛ほめ嘉穂メソッド」を推進し、自尊心や逆境に立ち向かう力をつける。 2 授業を計画、実施した後の評価を次に生かすことで、指導と評価の一体化を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。 3 文武両道の精神を重んじ、学習や部活動、学校行事での生徒の活躍を地域に広報し、地域の本校への期待と信頼を確かなものとする。 4 地元の自治体、企業や大学等と連携を図り、広い視野に立って考える力やコミュニケーション能力を養い、将来国内外で活躍できる人材を育成する。		
各 部	今年度重点目標			
1 教務部	確かな学力・高い志・豊かな心を持った生徒を育成するための効果的かつ効率的な教育課程を計画・運営・評価・改善を着実に実施する。			
2 研修部	効果的なアクティブラーニングとICT教育の融合を図り、思考力・判断力・表現力を育成するための教育方法を開発する。			
3 キャリア教育部 (KDC)	常に高い目標を掲げて、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付けるとともに、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。また、総合的な学習の時間を中心に嘉穂ドリームコンパスの充実を図る。			
4 生徒指導部	人間としての「氣高さ」を追求するとともに、自ら学び、自ら伸びるための主体的な行動ができる嘉穂高校附属中学校生徒としての誇りと確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。			
5 人権・特別支援教育部	他者に対して思いやりの心をもつとともに、グローバルな広い視野を持った生徒の育成を育成するための教育方法を工夫し、実施する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
教務部	1 学校の教育目標の具現化に向けた教職員一人一人の自覚と、組織的・協力的な教育活動を実施する。	校務分掌業務内容一覧表に基づき、一人一人の責任の明確を図るとともに、部会を定期的に行うことで着実な業務遂行を図る。		
	2 高校と行事や時間割等の連携を図り、意図的・計画的な教育活動を推進する。	教務主任同士の連携を密にするとともに、6年間を見通した学校暦の作成を協働で行う。		
	3 評価や評定の校内規準を作成・明確にし、指導と評価の一体化を図る。	定期考査の内容の充実を図り、観点別評価資料の着実な収集を実施する。		
	4 公簿の管理や成績等の事務処理の効率化と正確化を図る。	成績管理係、教育情報管理係が連携し、成績管理を確実に実行する。		
	5 家庭や地域及び関係機関との連携による開かれた学校づくりの推進。	各部と連携を図りながら、家庭や地域を巻き込んだ行事計画を作成し、着実な実施を図る。		
研修部	1 アクティブ・ラーニングを推進することで、学力の向上を目指す。	日常的に授業研究を行い、年間一人最低一回の公開授業を行う。		
	2 ICT機器を活用した授業を推進しモデルの確立を目指す。	話し合い活動の場面へのICT機器の効果的な導入を進める。		
	3 日常の学習指導方法の工夫と改善を推進し、学力向上・定着を図る。	年間2回の授業アンケートを実施する。また、校内研修において、結果から改善策を共有する。		
	4 高校・大学との連携を図った授業研究、実践を行う。	各種講演会、高校生との交流により、効果的な中高大連携プログラムを開発する。		
キャリア教育部 (KDC)	1 キャリアプランニングプログラム、グローバル・科学情報技術プログラムを推進することで、「志」の育成を目指す。	宿泊研修や一人一研、地域調べ学習、職業調べ学習や宿泊研修、調査研究、大学訪問や修学旅行、調査研究を中心として、さまざまな活動を行う。		
	2 学力伸長プログラム、個に応じた指導を推進することで、「文」の育成を目指す。	各教科を中心に各種コンクールに積極的に参加する。また、公開授業を行い、わかる授業の実施に力を入れる。		
	3 高校の伝統行事に積極的に主体的に参加することや部活動の活性化を推進することで、「武」の育成を目指す。	潤陵祭や大運動会をはじめとする伝統行事に、学級や部活動として主体的に参加していく。		
生徒指導部	1 生徒が自律的な生活態度を身に付け、学校生活を送ることができるように指導の重点化を図る。	毎日の係活動や行事において、生徒が中心となって活動するよう仕組むことで、自律的な生活態度を身につけさせる。		
	2 学年毎に、生徒の課題や発達段階に応じた指導プログラムを作成し、効果的な指導プログラムを策定する。	学級活動や道徳の時間にSEL8Sやグループエンカウンターなどの参加型学習を取り入れた、着実な実施を図る。		
	3 生徒会役員を中心に、行事や委員会活動等で計画的に取り組むことができるようにする。	新生徒会を結成し、行事や委員会活動の動かし方を学ばせることで、組織の動かし方を実感させ、リーダー性を育む。		
	4 各部が部活動のねらいを理解して計画的に活動できるようにする。	部活動係を中心に高校の部活動との連携を図り、効果的かつ効率的な部活動の運営を図る。		
人権・特別支援教育部	1 生徒が人権の問題を自分の問題として考えられる取組を実施する。	生徒がいじめや差別を、自分のこととして考えられるよう、日々の生活に根ざした教育内容になるよう工夫する。		
	2 直接体験の重視をした指導計画と、科学的認識を育成する指導計画を作成し、実施する。	人権教育の視点で教育課程を見直し、教科・道徳・特別活動の指導計画に直接体験や科学的認識を育成するための授業を導入する。		
	3 特別支援を必要とする生徒の実態を全職員が共通認識し、指導方法の工夫改善をする。	科学的な調査を基に、特別支援が必要な生徒の実態を明らかにするとともに、特別支援教育校内委員会を中心に指導方法の工夫改善を実施する。		
	4 専門機関による特別支援に関する研修から専門的見地を深め広げ、全職員の共通理解を図り、連携体制を構築する。	スクールカウンセラーを中心に特別支援教育に関する校内研修を行い、全職員の識見の向上を図るとともに、カウンセリングの効果的な実施を図る。		